

<b>令和3年度 基本評価調書①</b>		所管部局	環境生活部	所管課	文化振興課、道民生活課	
施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承			施策コード	03141	
政策体系(中項目)	ふるさとの歴史・文化の発信と継承			政策体系コード	3(4)A	
知事公約	C0077 C0080	総合戦略	A4613	国土強靱化	-	事務事業数 18
SDGs				総合判定	順調	

**【1 Plan】**

施策目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「北海道・北東北の縄文遺跡群」の早期の世界遺産登録に向けた取組を推進するとともに、北の縄文道民会議と連携した事業の実施など官民一体となった道民運動を展開する。</li> <li>北海道博物館を核として地域の博物館なども連携し、本道ならではの歴史や文化を発信する取組を推進し、次代に継承する。</li> <li>市町村や民間企業等の協力を得ながら、「北海道みんなの日」の認知度を高めていく。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>個性豊かな土偶や漆工芸を生み出した北海道と北東北3県(青森・岩手・秋田)に所在する縄文遺跡群について、早期の世界遺産登録に向けての取組を推進するとともに、道民の理解を深め、さらなる気運の醸成を図る必要がある。</li> <li>人びとの生活意識や価値観の多様化などにより、物質的・経済的な豊かさだけでなく、日常の暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさが一層求められるようになり、文化に対する関心や期待の高まりがあることなどから、本道ならではの歴史や文化を継承、発信する取組を推進する必要がある。</li> <li>「北海道みんなの日条例」で定めた“北海道みんなの日”に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況にある。</li> </ul>					
主な取組	<p>【縄文】</p> <p>【縄文世界遺産登録推進本部(4道県及び市町)] ユネスコ諮問機関(ICOMOS)の審査対応、国内フォーラム開催、国際的合意形成の促進</p> <p>【道及び北の縄文道民会議】 パネル展、セミナー等普及啓発事業</p> <p>【道】 普及啓発事業等情報発信の強化及び受入体制の整備</p> <p>【ふるさとの歴史・文化(北海道博物館)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道の歴史・文化に関わる「資料の収集・保存」、「展示」、「調査研究および成果の発信」、「教育普及」、「情報発信」</li> <li>北海道開拓の村の整備</li> <li>北海道の中核的博物館としての取組</li> </ul> <p>【道みんなの日の啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道みんなの日の認知度を高めるための啓発、市町村・関係団体への協力要請</li> </ul>					
予算額(千円)	R3	596,759	R2	585,839	R1	783,298
施策のイメージ	<p>道【縄文】 【ふるさとの歴史・文化】 【道みんなの日の啓発】</p> <p>連携</p> <p>市町村 博物館等で歴史・文化を継承・発信 記念事業の実施、広報・啓発への協力等</p> <p>民間等 歴史・文化を継承・発信する取組に協力 広報・啓発への協力等</p> <p>施策目標</p>					

**〈成果指標の達成状況〉 ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載**

指標名①	維持	千人	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標(R3)	達成率	指標判定
世界遺産所在市町の世界遺産登録年における観光入込数	目標値	-	-	-	15,430	15,430	-	-
	実績値	-	-	-	-	-	-	-
設定理由	<p>創生総合戦略の基本戦略「北海道独自の歴史や文化の発信」の観点から縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた官民一体となった道民運動の成果を図る効果的な指標として設定</p> <p>分析(主な取組と成果)</p> <p>ユネスコ諮問機関(ICOMOS)から縄文遺跡群を世界文化遺産に登録するよう勧告があったが、道民の理解を深め、さらなる気運の醸成を図る必要があると認識している。(評価年度が今年度のため達成率は算定不可)</p>							

指標名②	増加	%	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
北海道博物館の利用者満足度	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	80.0	129.9%	A
	実績値	75.6	93.7	90.9	-	-	-	-
設定理由	<p>総合計画の政策の方向性「北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承」の観点から、北海道博物館を核とした本道固有の歴史・文化の発信に係る効果的な取組を図る指標として設定</p> <p>分析(主な取組と成果)</p> <p>施設整備面を含め改善すべき点は多いものの、提供している総合展示、企画展示、教育普及事業の内容、施設環境、利用者サービスなどが、概ね高い水準で維持されているものと推定される。</p>							

<b>令和3年度 基本評価調書②</b>	<b>施策名</b>	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	<b>施策コード</b>	03141
----------------------	------------	-------------------	--------------	-------

## 【2 Do&Check】

成果指標	指標名	前々年度	前年度	評価年度	評価年度目標値	指標判定
成果指標	世界遺産所在市町の世界遺産登録年における観光入込数	-	-	-	15,430	-
	北海道博物館の利用者満足度	75.6	93.7	90.9	70.0	A
目標(指標)の達成状況	ユネスコ諮問機関（ICOMOS）から縄文遺跡群を世界文化遺産に登録するよう勧告があり、今年度の世界遺産登録に向け大きく前進した。また北海道博物館の利用者満足度は現状として高い達成度を示しているが、施設整備面を含め改善すべき点を改善しなければ、現状の達成度は保てないものと分析する。				指標総合判定	A
連携状況	教育庁文化財・博物館課と連携し、ユネスコ諮問機関（ICOMOS）の審査に対応した結果、縄文遺跡群を世界文化遺産に登録するよう勧告があり、また総合政策部地域振興局地域政策課に事務局を置く「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」や道内外博物館等と連携し、特別企画展「北海道の恐竜」を実現させる等、連携した成果を確認できる。				連携判定	○
緊急性優先性	今年7月にも世界遺産登録が決定される見込みであり、遺跡の魅力を伝えるガイドの育成や広報の強化及び遺跡へのアクセスに関する情報提供を行うため、国や関係市町と連携した取組が必要である。また北海道博物館については次年度以降の施策推進に役立てるため、アンケート調査や日常的に道民・利用者からいただいている意見の精査・検討が必要である。				緊急性優先性判定	○
総合判定の根拠	縄文遺跡に係る事業は今年度の世界遺産登録に向け大きく前進し、また北海道博物館はコロナ禍で休館や展示会・行事の中止・延期などが重なったが、一定の成果を収めた。				総合判定(一次評価)	順調

翌年度に向けた対応方針	対応方針番号	内容
	①	「北海道における縄文世界遺産の活用のあり方」に基づき、来訪促進に向けた道内遺跡群の価値の磨き上げや情報発信に取り組む。
	②	コロナ時代における博物館、開拓の村、公園の運営・事業のあり方の構築を検討。ポスト・コロナを見据え、また道民ニーズを踏まえ、博物館・開拓の村・公園の一体的な施設整備、展示の充実・更新、利便性の向上、およびサステナビリティの構築等を検討。
	③	

## 〈二次政策評価〉

前年度二次評価意見	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、施策の目標達成に向け事業内容を精査すること。	対応状況(R3.3時点)	道みんの日の趣旨の更なる理解促進に向けて、イベント等によるPRやシンポジウムの開催などにより機運醸成を図るとともに、市町村や民間企業などの協力を得ながら普及啓発に努める。
R3年度二次政策評価			

## 【3 Action】

二次政策評価への対応	
R4施策の方向性	来訪促進に向けた道内遺跡群の価値の磨き上げや情報発信に取り組むため、体験コンテンツの磨き上げや縄文遺跡に関する情報を集約したポータルサイトの構築などを実施し、事業効果の促進を図る。また、コロナ禍の長期化を見据え、楽しく体験でき、かつ安全な展示内容・会場運営の取組を進めるとともに、野幌森林公園エリアの活性化を図るため、DX事業等による魅力発信に取り組み、国内外の来園者の需要獲得を目指す。